

## レベル別で早めの避難を

### 防災気象情報の伝え方が変わります

国土交通省水管理・国土保全局と気象庁は5月29日(金)から、河川氾濫・大雨・土砂災害・高潮に関する警報などを、災害発生の危険度に応じて警戒レベルと明確に対応させた名称に変更します。

警報・注意報の情報名に  
レベルが付記されます

避難行動と直結するレベルがすぐに分かり、避難判断の目安が明確になります。

警戒レベル4相当の情報は  
危険警報として発表されます

危険な場所から避難が必要な状況であるレベル4相当の情報が危険警報として発表されます。

河川の氾濫の伝え方が変わります  
(特別警報の新設など)

従来の洪水警報(注意報)は廃止され、河川の区分に応じて伝え方が変わります。

### 新しい防災気象情報の情報体系とその名称

出典：熊本地方気象台

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮	住民がとるべき行動
	1級河川などの大河川の氾濫	低地の浸水や大河川以外の氾濫	急傾斜地のがけ崩れや土石流	海水面の上昇や波の打上げによる浸水	
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	直ちに安全を確保しましょう
<警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！>					
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から 全員避難しましょう
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は 早めに避難しましょう
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認しましょう (避難場所やルート、タイミングなど)
警戒レベル1	早期注意情報				災害への心構えを高めましょう

レベル3警報やレベル4危険警報が発表された場合は、町からの避難指示などに十分注意するとともに、キキクルや河川の水位情報などを活用し、危険な場所にいる人は早めの避難を心掛けてください。

気象庁の特設ページ\*では、新たな防災気象情報の内容や見方を解説しています。あらかじめご家庭や職場などで「どの情報が出たら、誰が、どのように避難するのか」を話し合い、行動を決めておきましょう。



\*特設ページ  
はこちら

### レベル2から突然「レベル4土砂災害危険警報」になることも！?

これまで警戒レベル3相当として発表していた「大雨警報(土砂災害)」は、「レベル3土砂災害警報」という名称が変わります。新制度では、このレベル3の情報は「約3時間後にレベル4の基準に達する可能性がある場合」に発表されます(4~6時間先に到達すると予測される場合にも発表)。

そのため、雨の降り方によっては

- レベル3が発表されないまま突然レベル4になる
  - レベル3の後、短時間でレベル4に引き上げられる
- といったケースが増えるの見込まれています。

### 「レベル3が出てから準備」では遅れる可能性も

「まだレベル3が出ていないから大丈夫」と考えていると、避難のタイミングを逃す恐れがあります。次の3つに留意し、早めの行動を心掛けましょう。

- 数日前から警報級の可能性が示される早期注意情報や、翌日までの見通しを示す時系列情報を確認しましょう。
- 地図上で土砂災害発生の危険度を確認できる土砂キキクルを活用しましょう。
- レベル2土砂災害注意報が発表された段階で、ハザードマップや避難ルートを再確認しましょう。土砂災害から命を守るためには、警戒レベルの情報を待つのではなく、雨の降り方や最新の予測情報を確認し、避難の判断を早めに行うことが重要です。



# 水害から命を守る

☎ 危機管理防災課 防災安全係 ☎096(232)2110

平成24年7月 九州北部豪雨(下津久礼)

水害から命を守るためには、一人ひとりが主体的に避難行動をとることが重要です。避難行動は、「まだ大丈夫だろう」という思い込み(正常性バイアス)や、避難の手間などから遅れてしまうことがあります。

水害・土砂災害は急激に状況が悪化することがあり、判断の遅れが命に関わる危険に繋がります。

町から発令される避難情報や気象庁の防災気象情報に加え、河川の水位情報や現地の映像、キキクル(危険度分布)などのリアルタイム情報を自ら確認し、早めの避難行動を心がけましょう。

### キキクル(危険度分布)とは

キキクルは、雨による災害の危険度を5段階で色分けして地図上にリアルタイム表示するものです。



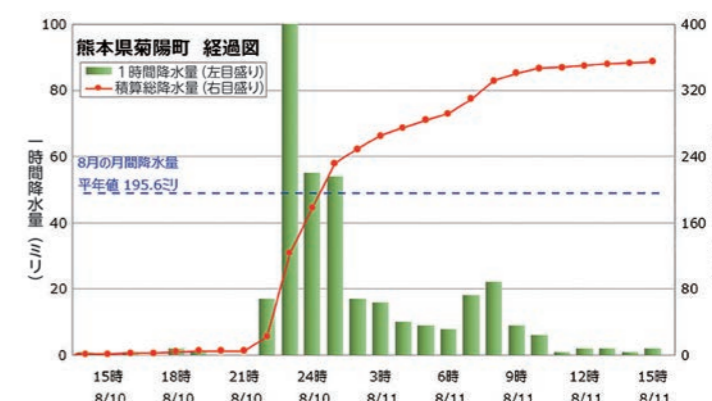
キキクルはこちら

### 大雨の発生頻度が増えるかもしれません

近年、気候変動の影響により、大雨の発生頻度は増加しています。昨年8月10日~11日には、1時間に100mm以上の猛烈な雨が観測され、内水氾濫により床下浸水や車両の水没などの被害が発生しました。気象庁の「日本の気候変動2025」によると、1時間降水量80mm以上などの強い雨が降る回数は、1980年頃と比べて約2倍に増加しています。

さらに将来予測では、これまで「100年に1回」とされていた大雨が降る回数は、  
気温が2℃上昇した場合：100年に約1.4回  
4℃上昇した場合：100年に約2.5回  
に増加するとされています。

令和7年8月10日降水経過図



出典：熊本地方気象台